

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 池永
日 時	平成30年4月25日(水曜日)	開 議	午後 3 時 10 分
		閉 議	午後 4 時 45 分
出席委員	◎西口、○石野、奥村、並河、藤本、木曾、明田（湊議長）		
出席理事者	【産業観光部】柏尾部長 [商工観光課]吉村課長、松本観光担当課長、篠部副課長		
出席事務局	片岡事務局長、鈴木係長、池永主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

1 5 : 1 0

1 開議（西口委員長あいさつ）

[事務局主任より日程説明]

2 案件

（2）行政報告

[産業観光部入室]

①生産性向上特別措置法に係る「導入促進基本計画」の策定について

[産業観光部長あいさつ]

[商工観光課長 資料に基づき説明]

1 5 : 2 0

[質疑]

<木曾委員>

先端技術についての計画を、本市でどのくらいの事業所が出す予定なのか。

<商工観光課長>

市内事業所からどれだけ申請が出てくるのかは予測できないが、国・府からの説明会の後、数社から問い合わせが来ている。多くの企業に活用いただけるよう、今後とも発信に努めたい。

<木曾委員>

何をもって先端技術と考えているのか。基本的な考え方は。

<商工観光課長>

資料の裏面に中小企業の手続きの流れを示している。市町村には計画申請・計画認定という部分があるが、まず設備メーカー等に証明依頼・また設備メーカーが工業会等に証明書発行申請等をされる流れがある。右側には経営革新等支援機関として

いるが、商工会議所や商工会、また地域金融機関等が支援機関に該当する。そういったところがそれぞれの中小企業の申請・依頼に基づき、先端設備であることの証明をしていくというスキームになっている。

<木曾委員>

3年間固定資産税が減免とのことである。計画をたてる以上は、デメリットとメリット等、数字的なものを明確にしておくべきである。見込みがたつのはいつ頃か。

<商工観光課長>

推測は難しい。設備投資の内容によって幅もある。いずれにせよ3年間は猶予されるが4年目からは通常どおりとなる。金額の算定は難しいが、こういったことで中小企業の支援に努めたいと考えている。

<木曾委員>

衆議院を通過しているので、既に国の方向性や内容の骨子は分かっているはずであるが、法が通ったらすぐに実施できる体制づくりはできているのか。

<商工観光課長>

今後の審議の動向は見通せないが、国では着々と準備が進められている。もう少し先に、計画策定に係る説明会が開催され、我々も出席する予定にしている。国の承認を取りにいく時期は6～7月頃になると考えているが、それに向けて、市税条例の改正を含めて準備を進めている。

15 : 28

②森のステーションかめおかについて

[商工観光課観光担当課長 資料に基づき説明]

15 : 37

[質疑]

<明田委員>

今、亀岡の匠として集まるのは何人くらいか。

<商工観光課観光担当課長>

5月26日には17人の匠が出演する予定である。すだれや陶芸家、和菓子等である。

<木曾委員>

来館者数等が2843人、3447人とのことだが、あまり人を見かけない。目に見えた形で、にぎわいの創出が必要である。3年間を過ぎたら主体的に頑張ってもらえることになるが、数字がひとり歩きしているのではないか。

<商工観光課観光担当課長>

4月22日のプレオープンの時の人数も入っているの大きい数字になっている。実際はおっしゃっているような現状である。ただ、今は研ぎ体験しかできないが、薬膳レストランと一体的にグランドオープンすることによって相乗効果を図り、旅行のツアー造成も行っていきたい。5月26日にグランドオープンした後、いろいろな形で、農業体験に来られた子どもたちも来ていただいて、薬膳料理を食べたり、研ぎ文化を体験したりという組み合わせの中で、できる限り人を呼び込んでいきたい。平成30年は旅行会社へのプロモーション等を行い、いろいろ来てもらうためのものを作っていくかならないと考えている。

<木曾委員>

レストランやコテージを含め、かなりの金額を3年間で投資する。それに対する相乗効果を出さねばならない。オープンやプレオープンの時だけで、常は人が来ないということになってはいけない。旅行会社との関係を含めて、事前に積極的な誘致を行い、1日に必ず観光バスが1台入るくらいにしないと難しいと考えるが、見通しは。

<商工観光課観光担当課長>

現在、DMOや観光協会、京都府観光連盟等のプロモーション事業の際は、必ず出すようにしている。現在は砥石の部分だけであるが、湯の花温泉とのタイアップも考えていかねばならない。昼食ができるような形でプロモーションをかけられるようになるので、市内のトロッコ列車等との連携など、市内三大観光とも連携し、旅行会社に売り込んでいきたい。

<木曾委員>

昼食を取ってもらうのには薬膳だけでは難しいと考えるが薬膳にこだわるのか。他のメニューも備えて団体客を取込まないと難しいのではないかと。薬膳だけでリピーターを確保するのは至難の業である。他の素材も使う考えは。

<商工観光課観光担当課長>

営業日は木曜日から日曜日までの週4日で考えている。薬膳御膳は提供できる数が限られてくる。コンサルにもうどんやカレー、デザート等が必要だと言われている。「必ずこの定食」というのではつらい。そういうメニューを開発していただいております、カレーやうどんを提供していくと聞いている。

<石野副委員長>

P5に記載の来場者は何の数字か。

<商工観光課観光担当課長>

26日の見込み数を2千人としている。下に記載しているのは、平成28年のプレオープン時の数字である。プレオープンと同じ数を想定し、駐車場などいろいろな準備を進めていくということである。

<奥村委員>

トロッコ列車等、三大観光と連携するのは当たり前の話である。森の京都DMOはどこまでやってくれているのか。予約はどれだけ入っているのか。

<商工観光課観光担当課長>

現状、予約が入っているのは数件であり、学校の先生の研修等である。旅行としてはゼロである。プロモーションをかけてなんとかツアーを造成していきたい。1年間で軌道にのるようになっていきたい。

<奥村委員>

オープン時に軌道にのせないとやっていけないのではないかと。旅行会社の印象はどうか。ツアーに入れるのか入れないのか、どういう判断をされているのか。

<商工観光課観光担当課長>

現在、椅子や机を入れている段階であり、旅行会社は受入れ態勢を見てから選ばれると考える。何人が座れ、バス1台を受入れられるのか等のしつらえを進めている。レストランとしては、バス1台は受入れたいと考えている。

<奥村委員>

近畿地方の旅行会社にオープンに向けての招待はしているのか。新聞記者や雑誌関係者に、オープンの招待をすることは考えているのか。

<商工観光課観光担当課長>

確かに旅行会社やマスコミも招待すべきである。早急に対応したいと考えている。

<木曾委員>

観光大使が3人おられるので、そういう人たちとうまくコラボすることも考え、PRしてもらうようにしない限り、あそこに足を運んでもらうのは難しい。そのようなことも考えてはどうか。

<商工観光課観光担当課長>

観光大使に情報提供し、発信をお願いするようにしたい。

<並河委員>

ステージゾーンで演奏を予定されているが、こういうことに興味を持っている人は結構おられると思う。具体的に考えている内容は。

<商工観光課観光担当課長>

森の邦楽コンサートとして、筑前琵琶の関係の人や、高屋笑山さんの尺八や、亀岡市太鼓連合会の太鼓等、いろいろと考えている。にぎやかなものではなく、あくまでも森の音楽として考えている。本来は有名な人に来てもらうことも考えたが、ここでお金を使うのではなく、定期的にイベントをしていく方がよいと考え、できるだけ市民に出てもらうことで計画している。事前にオープンのチラシを作っているが、詳細なチラシを5月15日に全国配布する予定で進めている。

<奥村委員>

比叡山の山中で夏にコンサートをされる。六甲山でもされている。有料でもよいので、もっと客が集まるようなイベントを企画すべきではないか。単に音楽が必要だから地域の邦楽でもしよう、お金がかからないからよいというのではだめなのではないか。

<商工観光課観光担当課長>

ACOON HIBINO (エイコン・ヒビノ)さんと調整していたが、体調の関係で今回出演を急遽断られた関係もある。諸事情はあるが、今おっしゃったように定期的にコンサート等、人を呼び込めるイベントをしていくべきであり、それは今後計画し、この1年、人がたくさん来られるように頑張っていきたい。

<西口委員長>

人が誰もいない、薬膳料理もおいしくなかったとの声を聞く。これでどう将来リーダーを呼ぶのか。企画が大事であり、企画倒れになったら先行きが重いものになる。あの地域ににぎわいを創出するにはお金も要るが、人が集まる企画が必要である。また休みも多く、ランチに行ってもやっていないとなると長続きしない。十分配慮されたい。

<藤本委員>

プレオープンの人数を除いたら、800人ほどしか来られていない。やはりマスコミや旅行会社との連携、湯の花温泉でぼたん鍋などを食べられて、翌日はヘルシーな昼食に来ていただけるよう、組合との連携が必要である。薬膳料理だけでは弱いのではないか。ジビエ等があってもよいのではないか。また、お茶の京都や宇治市との連携を図り、観光客を誘導してはどうか。誘導できる体制はとれているのか。

<商工観光課観光担当課長>

宇治市とは観光連携をしている。お茶を提供いただいたり、平等院とセットにするような取組みは今のところできていない。今後、連携して取組んでいきたい。

<木曾委員>

今後、亀岡市がずっと経営に関わっていくのか。何年後かに民間の指定管理等にするなど、長期的なスパンの戦略は。

<商工観光課観光担当課長>

現在、匠ビレッジには常駐で人がいるので、そうしたところでやっていたり、今後、施設全体の整備が完了した段階で、2階の部分は地元のNPOであるチョロギ村がされるので、そうしたところで指定管理等の方向に持っていきたいと考えている。ただ、市内の匠を呼んできて匠展等を行う部分については、市や観光協会等が入っていかねばならないと考える。市内の匠の展示は、常設ではなく順にやっていかねばならないため、そうしたところは、次の年度も行政として支援せねばならないと考えている。

<湊議長>

FMラジオでPRはしているのか。

<商工観光課観光担当課長>

行っていない。市の広報がスポット枠を持っているため、入れていきたい。

<湊議長>

人を呼ぶならラジオも使うべきである。また、イベントも含め、森のステーションは誰をターゲットにしているのか。スタンスを明確にしないと、将来の計画がたたないのではないか。

<商工観光課観光担当課長>

コンセプトは地元の特産品の発信や地域振興である。ターゲットとしては、砥石の関係や、料理の講習会の実施も考えており、市民の主婦層や、亀岡に来られている観光客も入れていきたいと考えている。情報の発信により、地域の移住・定住にもつながればと考えている。地域の特産品を発信できる場として進めてきたところであるが、発信力が弱い部分もあり、それは強化していきたい。

<湊議長>

とりあえず人が来てほしい、地域のことをわかってほしいというのでは、コンセプトが曖昧である。ターゲットを絞らないと続かない。魅力は、10人の人がいて10人に喜んでもらうのではなく、10人中1人でもよいから、その人だけをターゲットにするようなものしか伸びない時代である。ターゲットを絞らなければならない。「田舎」だけで発信していくのであれば、田舎をとことん追求していくような内容にしなければ難しいのではないか。ターゲットを十分絞っていただきたい。提案である。

<西口委員長>

以上で質疑を終結する。なお、薬膳レストランについては、5月10日に現地視察を行うので、よろしく願います。

16:03

[商工観光課退室]

(3) 行政視察に係る事前調査

①視察行程について

<西口委員長>

事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察行程について説明]

②視察目的及び視察項目の概要等について

③調査事項の抽出

<西口委員長>

別紙「行政視察調査シート」に基づき、視察目的と視察項目の概要を確認し、本市の現状や課題を踏まえ、視察先に特に説明を求めたい点などについて、意見を求めたい。まず、新潟市の農業の12次産業化について、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<西口委員長>

この項目については、当日、詳細を確認するということでよいか。<了>

<奥村委員>

担当が各部にまたがると思うが、どのように対応されるのか。

<事務局主任>

おそらく「農林水産部 ニューフードバレー特区課」の対応となるのではないか。

<西口委員長>

次に、新潟市の国家戦略特区の規制緩和を活用した農家レストランについて、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<奥村委員>

農家レストランで昼食をとることは可能か。

<事務局主任>

市役所から距離が離れているため難しいと考える。

<並河委員>

雇用がどれだけ増えたかを当日確認したい。

<西口委員長>

次に、村上市の田んぼダム of 取組みについて、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<西口委員長>

農業者の協力が非常に大きな力になる。どのように理解を得られたかが焦点となってくる。

<木曾委員>

例えば村上市に大きな川があり、たびたび水害に見舞われていた等、田んぼダム実施に至った経緯の説明を受けたい。

<並河委員>

同感である。

<西口委員長>

次に、村上市の歴史的風致維持向上計画について、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<西口委員長>

村上市は国の指定をもらわれている。本市でもできるかどうかは確認しておかねばならない。

<木曾委員>

国の指定を受けて、例えば無電柱化事業や道路の美装化事業、町並みを黒塀にする

など、統一した考え方でされていると考えるが、そういう事業は国の事業のどのあたりにあるのか。国・県・市との割合も含めて、そういう取組みをするためにどういう手法をとられているのか説明をいただきたい。

<西口委員長>

次に、天童市のふるさと納税による市内産業の活性化について、事務局から説明を。

<事務局主任>

[視察目的・視察項目の概要について説明]

<木曾委員>

33億円とのことであるが、これを地元産品で揃えるのには、農家を含めて、生産者と相当連携しないと難しい。亀岡は4億円足らずで今、パンク状態になっている。そういうことを聞きたい。亀岡の課題の部分をポイントとして聞けたら参考になるのではないかと。

<藤本委員>

わずか3年で33億円まで、どのように集めたのか。返礼率は。また、中学校までの医療費無料化や給食の無料化、保育料の無料化等、将棋だけではなく、使い道でアピールされている部分もある。どのような使い道をされているのか。寄附金であり、恒常財源でないというのを分かってされていると思うが、そのあたりを聞きたい。

<事務局主任>

使い道などを記載したホームページの打ち出しを配付した冊子に掲載しているので、そちらも参考にされたい。

<木曾委員>

今、将棋の藤井聡太六段も人気が出ている。そのような影響もあるのか聞きたい。

<西口委員長>

明智光秀の大河ドラマが決まったが、本市も同じようになればと考える。それでは、調査事項の抽出は以上とする。本日の意見を踏まえ、特に説明を受けたい事項については、事務局を通じて、事前に相手市と調整を行う。また、各委員で事前に調査を進めていただき、特に聞きたいことなどがあれば、5月1日までに事務局まで報告願う。なお、当委員会の視察には、議長も参加される予定であるので、御承知おき願う。

2 その他

<西口委員長>

5月の月例について協議する。行政視察終了後、レポートの提出をお世話になり、それを踏まえて行政視察の振り返りを行いたい。また、上下水道部から行政報告の申し出も受けている。日程はどうするか。

[日程調整]

<西口委員長>

5月の月例は、5月29日（火）午後1時30分からとする。次回は5月10日に森のステーション、薬膳レストランの視察を行うので、よろしく願います。

散会 ～16:45